

川崎医療福祉大学 同窓会報

第2号

平成9年1月15日

発行 川崎医療福祉大学同窓会

〒701-01 倉敷市松島288
川崎医療福祉大学同窓会事務局
☎・FAX (086) 462-8541



御 挨拶

学 長 江 草 安 彦

敬愛する川崎医療福祉大学の同窓生の皆さん、お元気ですか。まず大学の近況を申し上げます。大学では、本年から大学院の2研究科6専攻が発足し、ようやく第2ステージに入りました。施設・設備も充実してきています。いずれ博士課程の設置の準備もしなければなりません。先生方も教育に研究にがんばっています。学部、大学院の学生たちもこれにこたえています。

こうしたなかで、皆さんに残念なお知らせをしなければなりません。さる6月2日、川崎学園の創始者である川崎祐宣先生が逝去されました。先生は皆さんもご承知のように、医療福祉の概念を提唱され、実践された方です。そうし

て、川崎医療福祉大学へなみなみならぬ情熱を傾けて下さいました。7月6日、しめやかに学園葬が行われました。2年にわたる病床生活のために川崎医療福祉大学の卒業式に一度も出席していただけませんでした。かえすがえすも残念でした。謹んで哀悼の意を表するとともに、本学は先生の思想をますます明確にし、発展を期したいと願っています。

各地でご活躍の同窓生の皆さんには初心を忘れることなく、わが国に住むすべての人間がその存在を十分に認めあえるような21世紀になるようにがんばって下さい。機会を求めてのご来学を心からお待ちしています。

(H7. 8月)



御 挨拶

副学長 医療福祉学部長
大 羽 素

川崎医療福祉大学の同窓会の皆様、その後お変わりありませんか。第2期生の卒業証書ならびに学位記授与式を終えてから、もう5ヶ月。8月も半ばとなり、学内も夏休みのため静かです。

数日前までは、ラクロス部、ハンドボール部、ラグビー部、サッカー部、庭球部などの現役学生の諸君や、チアリーダー部の人たちが、部の練習をやっておりました。この暑い中を、しかも太陽の直射の下で、「大変だなあ。よくやるなあ。」と感心しながら、毎日、彼等の練習をしばらく拝見しましたが、後輩たちはこのように、暑さにも負けず頑張っておりますので、御安心ください。夏期休暇中の合宿や遠征も沢山計画され、多分先輩の皆様にも、各地でお世話になっているかと想像しております。どうぞ同窓会の皆様、後輩の学生をどうぞよろしくお願い致します。

さて、1期生の皆様が続いて2期生も、社会人として、また一部は大学院生として励まれているわけですが、江草学長が常々言われますように、皆様の今日の生活は、平坦な日々ではなく、さまざまな難関に出合っておられると想像します。

医療福祉の新分野は、専門によって未開拓の分野が沢山残されております。そのために、いろいろの面で苦しい思いをなさるかと思案じます。どうか強い気力で道を開く者となってください。大学としても、各学科でそれぞれ卒業生のために、いわゆる卒後指導ないし卒後研修の機会を計画し、実行するようにしております。同窓の皆様と大学が常につながって、現代社会の要請に対応できるよう頑張りたいと思います。

どうか皆様もお互いに、同窓のきずなを常に強く保ち、前途に希望を掲げてお励み下さい。

大学院も発足しました。2研究科、6専攻、学生定員50名という大規模なものが認可され、川崎医療福祉大学は、これからも一層発展が期待されることでしょう。今後とも御支援をよろしくお願い致します。

同窓会の皆様の御活躍を祈り、簡単ですが御挨拶と致します。(H7. 8月14日大学にて)



コンピュータ・リテラシーと教養科目

副学長 医療技術学部長
上 田 智

同窓会の皆様いかがお過ごしですか。今年の梅雨明け以降の猛暑で体調を崩された方がおられるのではないですか。病原性大腸菌O-157の猛威に日本全体が恐怖の嵐の中に置かれ、食事の毎にもしや自分も感染するのではと考えるくらいの毎日を経験し、食中毒より伝染病の蔓延といえる状態でした。

母校も2期生を社会に送り出し就職についても暗中模索の状態から、明確な就職の目標を定めることが出来るまでになりました。

同窓生の皆様の社会での活躍は目をみはるものがあり、お陰で第2期生の就職率は95%と1期生のそれを上回る好成績を挙げることができました。

本学も開学以来7年目を迎え、開学当初に設定されたカリキュラムも時代の変化とともに改革の時期が来たと考えられるようになりました。

医療情報学科を例にとれば、開学前の情報の世界は、未だハードウェアの時代でしたが、技術の進歩はホストコンピュータの時代からパーソナルコンピュータへとダウンサイジングが進み、パソコンネットワークへと発展し、一人が1台のパソコンを駆使して仕事をする時代へと、最近5年間で世界は大きく変化してしまいました。ソフトウェアの時代であり、システムアドミニストレーター資格を持った専門家が社会で求められる時代となって参りました。業務分析を行い、システムの企画を提案し、業務の改善を進言できる人材が、あらゆる職種で求められるようになって参りました。

本年7月20日、21日に広島で医師会主催の地域医療情報ネットワークシステム研究会が開催され、本学科3年生の作品の供覧の要望があり、訪問看護ステーション管理支援システムを会員の医師に見て頂きましたが、近い将来に日本医師会が中心となり全国にネットワークが整備され、医師会員間のイントラネットが診療に使わ

れる時代が間近であると感じました。その時に医師とともにコンピュータを駆使して医療を支える人材の必要性を強く感じました。今医師が求めているコンピュータの専門家は、業務分析の結果をシステム提案の企画書として作成出来る人材であり、医師とシステムエンジニアとの仲介役ができる人材であると思います。開学当初はカルテが理解でき、プログラミングのできる人材を養成することを目標にしましたが、今やカルテが理解でき、システムの企画が提案できる人材が私共の教育の目標となりました。ハードウェアからソフトウェアへの変化であり、情報管理者として経営的センスを持ち合わせたコンピュータ専門職が求められております。

コンピュータが日常の業務の道具として、あらゆる業種の仕事場に人と共に共存する時代となりましたが、これからは道具として誰でもコンピュータを駆保する時代となり、コンピュータ・リテラシーは一般教養として誰でも身につけておかなければならない時代になりました。

本学も学内 LAN が完成し、川崎学園全体も本年10月には LAN が完成いたします。インターネットでのメールの交信も可能となります。本学のホームページも大学院生をリーダーとして学生の手で着々と作業が進められております。今後はネットワークを活用して大学と同窓生間の情報交換が盛んに行われ、最新の情報がすべての卒業生に簡単に届けられる環境が整備されることを望んでおります。

同窓生の皆様の御健康と御活躍をお祈りいたしております。(H 7. 8月)

川崎医療福祉大学同窓会機関誌 第二号発行にあたって

川崎医療福祉大学同窓会副会長
片山敬章

川崎医療福祉大学同窓会が、本会機関誌第2号を発行することができることを大きな喜びであります。

川崎医療福祉大学及び川崎学園の発展と、同窓生のご活躍を念願し、第1期生の卒業と同時に発足いたしました本会も、はや、第2期卒業生を新たに加えることができましたことは大きな喜びであると共に、同窓会活動をよりよく発展させなければならないと新たに考える次第であります。この機関誌は、現在の川崎医療福祉大学および川崎学園の状況、同窓生の近況、同窓会活動状況などを主に報告していくものです。本部の変動といたしましては、第2期卒業生の中から新たに5名が本部役員に加わり、本部活動に参加していただくこととなりました。これにより、さらに本会の活動がよりよく、また円滑に行えると確信しております。さらに、前年度11月に行われた代議委員会までに申請がありました学科に限り、本会援助による支部会を設立する予定であります。各学科の状況につきましては、各学科の評議員に御連絡していただき、支部会設立計画などを進めていただければと考えております。

H 7年度実施の国税調査では、7人に1人が65歳以上になり急激な高齢化が進んでいることが報告されています。このような社会の中で、より一層の期待が皆様に注がれています。日頃の活発なご活動により、医療福祉の進展に大きく寄与されますことを念願いたしております。

また、今回発行となりました機関誌、その他同窓会活動などについてご意見、ご感想などがありましたら、本会企画局まで御連絡いただけますようよろしくお願い致します。

末筆になりましたが、平成8年6月2日、川崎学園名誉理事長川崎祐宣先生がご他界されたことを皆様にご報告させていただきますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

2 期 生 就 職 状 況

平成 8 年 4 月 4 日 現在

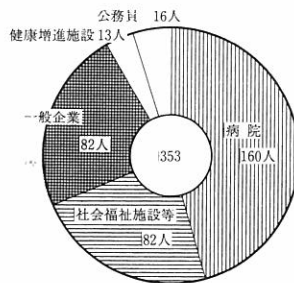
就職委員会・就職課

| 学科 | 卒業者数 | 進学 | その他 | 就 職 希 望 者 (就職希望率) | | | 就 職 者 数 | | | 就 職 率 | | | (H7.3.31現在) 前年就職者数 (就職率) |
|------|------|----|-----|----------------------|-----|-----|---------|-----|-----|-------|------|------|--------------------------------|
| | | | | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 医療福祉 | 157 | 13 | 7 | 137 (87.3) | 55 | 82 | 127 | 51 | 76 | 92.7 | 92.7 | 92.7 | 332 (91.5) |
| 臨床心理 | 40 | 5 | 4 | 31 (77.5) | 6 | 25 | 29 | 6 | 23 | 93.5 | 100 | 92.0 | 57 (90.5) |
| 医療情報 | 100 | 10 | 4 | 86 (86.0) | 34 | 52 | 84 | 33 | 51 | 97.7 | 97.1 | 98.1 | 100 (94.3) |
| 感覚矯正 | 49 | 9 | 1 | 39 (79.6) | 7 | 32 | 39 | 7 | 32 | 100 | 100 | 100 | 43 (100) |
| 健康体育 | 51 | 12 | 3 | 36 (70.6) | 13 | 23 | 34 | 12 | 22 | 94.4 | 92.3 | 95.7 | 41 (100) |
| 臨床栄養 | 49 | 5 | 4 | 40 (81.6) | 1 | 39 | 40 | 1 | 39 | 100 | 100 | 100 | 45 (100) |
| 合 計 | 446 | 54 | 23 | 369 (82.7) | 116 | 253 | 353 | 110 | 243 | 95.7 | 94.8 | 96.0 | 618 (93.5) |

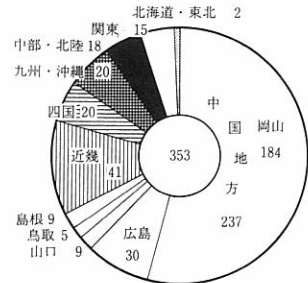
◎各学科別業種別就職状況

| 学科 | 就職先 区分 | 医療 機関 | 福祉 施設 | 一般 企業 | 健康 増進 | 公務員 (臨時職 員含む) | 合計 |
|-------|-----------|----------|----------|----------|----------|---------------------|-----|
| 医療福祉 | | 43 | 65 | 12 | 0 | 7 | 127 |
| | % | 33.9 | 51.2 | 9.4 | 0 | 5.5 | 100 |
| 臨床心理 | | 15 | 6 | 7 | 0 | 1 | 29 |
| | % | 51.7 | 20.7 | 24.1 | 0 | 3.5 | 100 |
| 医療情報 | | 35 | 3 | 45 | 0 | 1 | 84 |
| | % | 41.6 | 3.6 | 53.6 | 0 | 1.2 | 100 |
| 感覚矯正 | | 36 | 2 | 1 | 0 | 0 | 39 |
| | % | 92.3 | 5.1 | 2.6 | 0 | 0 | 100 |
| 健康体育 | | 11 | 2 | 5 | 12 | 4 | 34 |
| | % | 32.3 | 5.9 | 14.7 | 35.3 | 11.8 | 100 |
| 臨床栄養 | | 20 | 4 | 12 | 1 | 3 | 40 |
| | % | 50.0 | 10.0 | 30.0 | 2.5 | 7.5 | 100 |
| 全 学 科 | | 160 | 82 | 82 | 13 | 16 | 353 |
| 合 計 | % | 45.3 | 23.2 | 23.2 | 3.7 | 4.6 | 100 |

◎全学科業種別就職状況



◎全学科地区別就職状況



川崎医福大ニュース第29号 (H 8 . 4 . 25) より

同 窓 生 の 声

医療技術学部 健康体育学科 2期生

菊 地 邦 子

早いもので、大学を卒業して10ヶ月が経とうとしています。私は、現在スポーツクラブのインストラクターとして働いています。職場では、午前中はフィットネス業務、午後からは子供のスイミング業務をしています。わが社では、このような業務体系をとるのは始めてなので、新しいタイプのインストラクターとして成功できるよう、毎日がんばっています。

フィットネスでは、午前中だけの業務なので、中高年の人が多く、高血圧・高脂血症・糖尿病など、成人病の人もたくさん来られます。これらの運動処方には、大学時代に学んだ知識が大いに役立っています。しかし、覚えなければならない業務もたくさんあるので、毎日忙しく、アツという間に時間が過ぎてしまいます。とにかく、今はおばさんのパワーだけには負けないようにしようと、がんばっています。

スイミングでは、3才の子供から小学生までを対象に、毎日水泳を教えています。本当のことを言うと、入社前は小さな子供を相手にするのは少し苦手だな、と思っていたのですが、最近では子供にも慣れて、かわいい子供がたくさんいるので、毎日楽しく指導しています。

今後は、もっと経験をつんで、スポーツ活動の最前線で活躍したいと思っています。また、健康・サービスと教育を通じて、子供達のすこやかな成長と、人々が豊かな人生を送るためのお手伝いができれば……と考えています。

医療福祉学部 臨床心理学科 2期生

本 谷 多加栄

社会人となり8カ月が過ぎました。私は今精神科の病院で心理療法士として働いています。初めは何もかもが新鮮で訳も分からず、精神科医療にショックを受けたりもしましたが少し周りをみる余裕もできてきたように思います。病院は医師、看護婦、OT、PSW、CPなどそれぞれ専門の分野を担当する人達の集合体で横のつながりの大切さと、自分の専門以外の職種への理解の大切さを実感しています。福祉大学では医療に携わる人々の養成ということで、他職種を目指す人達との交流もあり情報も入りやすい環境にあると思います。視野を広くもつことはコメディカルがスムーズに病院で仕事ができる1つの方法ではないかと思っています。心理職に関しては心理テストと“何でもやる気”が必要だと思っています。私は病棟に所属しているので看護婦の日勤帯と同じスケジュールで動き、心理テストや面接などを先輩の心理士に指導していただいています。CPなのにどうして?と思うこともあります。患者さんの日常に接することで個々の症状とその変化がよく理解でき、またある程度の信頼を得ることもできるので結局、自分の仕事が安全に出来るように思います。まだまだ未熟で失敗ばかりしているので反省ばかりの毎日ですが幸いにもよい人達に囲まれて楽しく仕事ができます。大学時代が懐かしく、戻れるものなら……と思うことも正直に言えばありますが今自分のいる状況を大切に過ごそうと思っています。福祉大学の皆さん私を含め卒業生たちは大学時代の思い出や仲間を心の支えに頑張っています。帰る場所としても大学をもり立ててください。

あと数カ月もすると卒業してから1年がたつことになります。学生時代、授業だ、と考えるとあんなに憶劫だった大学が離れてみると不思議と懐しく、恋しくさえも思えてきて、2・3カ月前に友人と訪れ、“学生の時は楽しかったなあ”などと学内、学校近辺のあちらこちらに思い出を見つけ、はしゃいでしまいました。

今年は景気もわずかながら上昇し、就職率も少し良くなったと言われていますが厳しい状況である事には変わりなく、それだけにその中で就職した我々、一人一人に対する社会の評価も辛辣なものとなっていることと思います。社会人1年生として私も色々の良い勉強をさせて頂いています。辛い事や大問題にぶつかったり失敗した時などは泣きたくなったり、逃げ出さなくなったりもしますが、そんな時パワーの源となるのはやはり、学生時代の友人だったり、一緒に頑張った部活の仲間だったりする理由です。あんなに毎日のように一緒に過ごしていただけに、ほんの時々しか会えないとなると今まで皆を好きだったその10倍ぐらい好きに思えてくるから不思議です。

除々にではあるけれど考え方が変わり、少し大人になったなあ、と自分を誇らしく思えたり、逆に安易にハメはずせないことを寂しく感じている今日この頃です。何だか学生の頃の全てが暖色のベールに覆われてしまった様ですが、そのベールの中にある自分をベースにして頑張っていこうと思っています。

はや、就職をして9ヶ月が過ぎようとしています。

就職が決まり4月までの間、本当にこれから自分は栄養士として働いていけるのであろうかという不安がありました。そして、いよいよ実際に現場に入って感じたことは、私はついて行けるだろうかという新たな不安と全力で頑張ろうという思いでした。

しかし、一方では4・5月に国家試験をひかえており、精神的に圧ばくされそうになりました。が、逆にこのことが目標になっていました。受かった時は、本当に肩の荷が一つおりた様で気持ちが楽になりました。

新しいことを一つ又一个つと教えていただくにつれ頭の中がパニックになってしまいそうになりました。そして、てきぱきと動けない自分にとても腹立たしく思えることもあります。

当然、間違ったことを行って注意を受けることもあります。しかし、落ち込んでいる暇もなく次のことが押し寄せてきます。又、注意の方も、今度は同じことを言われぬよう心掛けているつもりにして、なるべく前向きにするようにしています。

まだまだ、新人で上司の方々に迷惑をかけることと思いますが、新しいことを覚えていくよう努力を忘れないよう心掛けたいです。

皆、出発点は同じだけれども今、進んでいる道はそれぞれ違っており、仕事の大変さも人によって違うけど、自分の納得する生き方をして欲しいです。

編 集 後 記

新春を迎えて謹んでご挨拶申し上げます。

同窓会も2期生が加わり、皆様、各分野でますますご活躍のことと思います。

同窓会会報もやっと第2号発刊にこぎつけました。今号発刊にあたり、快くお引き受けくださった先生方に厚くお礼申し上げます。また、「同窓生の声」を短期間で寄稿していただき、なんとか体裁を整えることができました。大変感謝いたします。

次号では同窓会組織図、決算、予算等々も掲載予定です。ご寄稿いただける方、編集の企画などにご意見のある方は同窓会、会報誌発行係までご連絡下さい。

最後に、本会誌の発行にご協力いただいた会長、理事の方々にお礼申し上げます。

企画局 杉森

